

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

岐阜県の最北東端に位置する飛騨市神岡町は総面積312平方キロ、人口9000人ほどで、富山県と高山市を結ぶ交通要衝にある。周囲は標高3000メートルを超える北アルプスや飛騨山脈など峰々に囲まれ、神通川の支流である高原川が南北に貫通する自然に恵まれた地域である。

鉱山城下町の衰退

しかし採掘鉱脈が細り、鉱石（亜鉛、鉛等）類の枯渇によって次第に事業規模が縮小し、01年には全面的な採掘中止に追い込まれた。神岡鉱山

古いものを生かし新しいものを取り入れる

宇宙最先端科学のまち

神岡町は1874年頃から約130年間にわたり、鉱山事業を中心として鉱山城下町が形成されていた。1960年には鉱山の総採掘量が7500万トンに及び「東洋一の鉱山」と

の未処理廃水によって富山県の神通川下流域で発生したイタイイタイ病が公害病と認定され、社会問題にもなった。整備拡充である。具体的には、鉱山城下町を

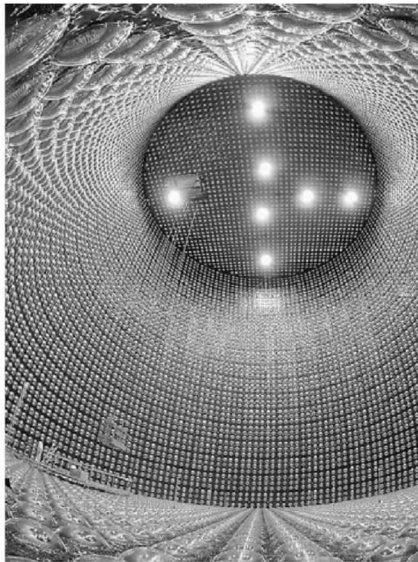
ノーベル物理学賞

にレールマウンテンバイクでの「体験」、旧神岡鉱山跡に設置された「最先端宇宙物理学研究」「学び」を一体化させた、「科学と文化と交流のまち」を目指す環境の整備である。

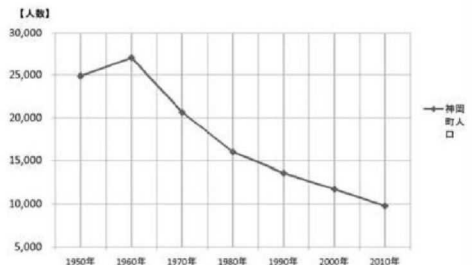
旧炭鉱地区は往

時を繁栄をしのばせるのに人を呼び、ボランティアによる街歩きツアーも催されて、新たな観光の目玉となっている。また

「日本不動産研究所岐阜支所、不動産鑑定士・西村隆」



宇宙素粒子観測装置「スーパーカミオカンデ」(東大宇宙線研究所施設)



飛騨市神岡町 人口推移 (2015年度は未発表)

ノ観測で知られる宇宙素粒子観測装置「スーパーカミオカンデ」が設置されたことで、世界最先端の宇宙科学研究所として国内外から注目を集めることとなった。02年に小柴昌俊氏、15年には梶田隆章氏がニュートリノ研究によりノーベル物理学賞を受賞したことは記憶に新しい。

神岡町は今、「宇宙最先端科学のまち」として市街地活性化を進めている。歴史ある豊富な鉱山資源を最大限に生かしたまちづくりをコンセプトに、今後さらに古民家を再生して宿泊施設やイベント開催など交流の場として活用する計画も進めている。創意工夫でまちおこしを行なう先駆けであり、今後の躍進を期待したい。